

# 2022年アルメーレ国際園芸博覧会 政府屋内出展基本方針

## 1 はじめに

園芸先進国であるオランダ王国(以下「オランダ」という。)において、昭和 35 年(1960 年)に始まり、昭和 47 年(1972 年)以降 10 年に一度開催されている国際園芸博覧会(フロリアード)は、欧州をはじめ世界各国が優れた花きや造園、園芸技術等を出展する、世界で最も歴史・伝統を有する国際園芸博覧会である。わが国は平成4年(1992 年)、平成 14 年(2002 年)、平成 24 年(2012 年)と過去 3 回にわたり政府出展を実施し、品種コンテストでの受賞等を通して我が国の優れた花き等をアピールするとともに、我が国の園芸文化の普及を促進してきた。

令和4年(2022 年)にアムステルダム市近郊のアルメーレ市で開催される国際園芸博覧会(以下「アルメーレ園芸博覧会」という。)については、オランダ政府から参加招請があり、令和3年(2021 年)4月9日、幹事省を農林水産省及び国土交通省として日本政府が公式参加することを閣議了解した。

農林水産省は花き及び花きの文化についての屋内出展(展示館)を、屋外出展(庭園)を行う国土交通省と連携して行うこととしている。本方針は、屋内出展を進めるに当たって基本となるものであり、これに基づいて実施計画の策定等の具体的な準備を行っていくこととなる。

## 2 アルメーレ園芸博覧会の概要

アルメーレ園芸博覧会は、令和4年(2022 年)4月 14 日から 10 月9日までの 179 日間、「成長する緑の都市(Growing Green Cities)」をテーマにアルメーレ市で開催される。約 40 か国の参加と約 200 万人の入場者が見込まれている。

我が国は、博覧会会場の国際展示区域の中にある 1,800 m<sup>2</sup>の区画で、屋内展示と屋外展示を調和のとれた一体的なものとして展示することとしている。

## 3 我が国の花きをめぐる状況

### (1) 多様で高品質な花き

我が国の多様で高品質な花きは、これまでの国際園芸博覧会のコンテストで多くの賞を受賞するなど国際的に高い評価を得ている。

また、四季のはっきりした自然に対する畏敬と感謝の気持ちを併せ持つ日本人の自然観は、生け花や盆栽、門松等の世界に誇る豊かな花きの文化を育ててきた。

### (2) 花き産業

我が国の花き産業は、農地や農業の担い手の確保を図る上で重要な地位を占めるとともに、花きに関する伝統と文化は国民の生活に深く浸透し、国民の心豊かな生活の実現に重要な役割を担っている。「花きの振興に関する法律」(平成 26 年法律第 102 号)は、花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針の策定とともに、花きの輸出の促進、花きの博覧会への参加に対する支援につ

いて規定している。

国内の切り花購入額は減少傾向、切り花輸入額は増加傾向にある中で、農林水産業の輸出力強化戦略の一環として、花き輸出額については、令和 12 年(2030 年)に 200 億円、令和 17 年(2035 年)に 450 億円を目標として取り組んでいる。

#### 4 出展の基本的考え方

アルメーレ園芸博覧会のテーマ「成長する緑の都市」、サブテーマ「緑」等との整合性を図りつつ、日本の出展区画においては、「SATOYAMA Farm Garden(里山の農家の庭)」をテーマに、屋内出展及び屋外出展を一体的に展示し、我が国の伝統的な資源循環型のライフスタイルを表現することとしている。このテーマを踏まえ、里山の農家をイメージした展示館において、我が国の多様で高品質な花き、花き園芸技術及び奥行きのある花き文化を、最先端の園芸技術が集結するフロリアードにおいて、オランダをはじめ世界に向けて発信することで以下の実現を図る。

##### (1) 輸出拡大と産業振興

園芸先進国オランダで 10 年に一度開催されている、世界の園芸関係者の関心も高い国際園芸博覧会の機会を活用し、国産花きの輸出拡大と我が国の花き産業の振興を図るため、花き関係団体や関係省庁等と連携を図り、我が国の優れた花き品種や花き園芸技術等を展示する。また、出展や品種コンテストへの積極的な参加等により、花き等に代表される我が国の園芸製品の国際的な評価の向上を目指す。

##### (2) 日本の花きの文化の魅力の発信

我が国の自然と調和する伝統的な園芸文化、生け花、盆栽等世界に誇る花きの文化を紹介する。また、新型コロナウイルス感染症の流行を契機として身近に花や緑のある暮らしの重要性が高まっている中、花や緑の持つ効用について紹介する。

##### (3) 被災地復興支援への感謝

東日本大震災の被災地で生産された花きの展示を行うことにより、被災地の復興と支援に対する感謝を示す。

##### (4) 2027 年国際園芸博覧会の PR

令和9年(2027 年)に横浜市で「幸せを創る明日の風景」をテーマに開催を予定している国際園芸博覧会について、世界にアピールし、国際的な関心を高める機会とする。

#### 5 屋内出展のテーマ

開催主体と来場者に我が国のメッセージを伝える屋内出展のテーマは、以下の視点から検討する。

##### (1) アルメーレ園芸博覧会のテーマである「成長する緑の都市」及びサブテーマ「緑」

等と屋外出展を含む日本政府出展の全体のテーマ「SATOYAMA Farm Garden」との関係性

(2) 日本の花き産業・花きの文化の特徴や魅力が表現されるとともに、入場者を引きつける力を有すること

(3) その他に考慮すべき視点の例

- －日本の生活の様々な場면을演出している花きの多様性
- －日本の育種技術やその成果等
- －環境に優しく持続的な園芸技術
- －花や緑に親しみ、情操を育む「花育」
- －花や緑の持つ多様な機能、効用
- －花き園芸分野における日本とオランダの関わり

## 6 展示・催事等の内容と方法

(1) 展示

- ・日本の豊かな四季を活かした展示とする。また、日本の感性を表現する演出にも配慮するとともに、若い世代を含む幅広い年齢層にアピールできる内容とする。
- ・企画展示(地方公共団体、園芸関連団体、民間企業等が参加)ではそれぞれの特徴を活かした展示とするとともに、屋内展示全体では屋内出展のテーマの下で統一感のある展示とする。
- ・実物や写真、映像等の様々な媒体の活用、「発見」と「体験」、花き以外の我が国の文化と関連づけた演出等により来場者の記憶に残る工夫を行う。
- ・展示花きの品質管理などのため専門スタッフを配置する。
- ・展示品の知的財産権に配慮する。

(2) 商業的活動

オランダをはじめとする国際市場へのビジネス展開に寄与する次の取組を行う。

- ・日本の出展に関連する園芸品等の商業スペースの確保とキャッシュレス決済の導入
- ・出展者等の商談スペースの確保や受付で収集したバイヤー情報等の出展者への還元
- ・我が国とオランダ等の花き業界の関係強化とビジネス拡大を目的とする意見交換会等の開催

(3) 催事

- ・開会式、閉会式及び参加各国に割当てられ記念式典を行う日であるナショナルデーでは、生け花、茶道等により日本の花き文化を演出することで、来場者の記憶に残る工夫を検討する。
- ・日蘭両国の花き及び花きの文化についての意見交換、日本の伝統的な花き等の文化を広く紹介するプログラムを実施する。
- ・実施に当たっては、在蘭日本人関係団体等と連携し、ボランティア等の協力

を求める。

## 7 広報、啓発活動

新聞、雑誌、ポスター、テレビ、ウェブサイト、SNS 等の双方向メディア等多様な媒体を活用して日本の出展、日本の花き・花き文化を広くPR する。

### (1)会期前

出展者の募集等の国内向け広報を関係機関、花き関係団体等を通じて実施するとともに、多様な媒体により、アルメーレ園芸博覧会の開催及び日本の政府出展を発信する。また、日本の出展への来場者確保に資する英語での広報を実施する。

### (2)会期中

日本の展示・催事の様子、現地でのトピックス、品種コンテストの結果等を積極的に国内外に広報し、2027 年国際園芸博覧会に向けた機運醸成に資する。

インフォメーションカウンターの設置、専門スタッフの配置により積極的な情報提供を行う。

### (3)会期後

コンテスト受賞品種等を広報する。

## 8 花き業界の活性化と人材の育成

園芸先進国オランダで10年に一度開催されている国際園芸博覧会という貴重な機会を活用し、花きの育種、生産、流通、販売、文化等の各分野からの人材が、企画展示、品種コンテストや催事への参加、専門スタッフの派遣等の様々な形で協力することで、花き業界全体の国際化と振興につなげる。

また、将来の花き業界を担う人材の育成と交流の場を提供する。